



電池はなぜそのまま捨ててはいけないの

電池の中に有害物がふくまれているから

電池は、ラジカセ・ヘッドホンステレオ・時計など、わたしたちの生活の中で、さまざまな機器に使われています。

電池の中には、いろいろな種類の金属資源がつまっています。また、有害物質をふくんでいるものもあるので、使い古しの電池を、そのほかのごみといっしょに捨ててはいけません。電池にふくまれている有害物質が、環境を汚染するからです。

これらの金属による環境汚染を防いだり、金属を回収するために、電池はほかのごみと区別して回収する必要があります。そのためには、電池についてよく知り、電池の回収やリサイクルに協力することが大切です。

電池には2つのタイプがある

電池には、充電できない電池と、充電できる電池の2つのタイプがあります。充電できる電池は、ニカド電池や鉛蓄電池などです。ニカド電池は、充電すれば何度でも使えるので、リサイクル電池の決定版といえます。しかし、ニカド電池は、有害なカドミウムをふくむので、そのほかの乾電池と分別して出す必要があります。

乾電池は、市町村によっては、「有害ごみ」として分別回収されていますが、回収率が低いので、あなたもこれからは、分別回収に協力しましょう。（監修・田代 脩）

